

研究の経過と概要

1 今年度の部会研究テーマ

「平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして」

2 今年度の部会研究の経過（予定も含めて）

5月 9日(水)	研究組織・研究テーマ・大まかな研究内容等の決定
5月23日(水)	具体的な研究計画 授業者決定 情報交換
6月13日(水)	実践報告(山梨北中:古屋) 研究授業の授業づくり(加納岩小:中山)
8月 6日(月)	講演会 講師 JICA山梨デスク国際協力推進員 オードラン萌先生 八王子市立恩方中学校 木下知美先生 研究授業の授業案検討(加納岩小:中山)
8月29日(水)	統一授業研究会(加納岩小:中山)
9月19日(水)	実践報告(山梨北中:永関 大和小:田邊)
11月28日(水)	実践報告(山梨小:岩下)
1月 9日(水)	実践報告(山梨北中:広瀬 八幡小:日野原)
2月 6日(水)	実践報告(後屋敷小:桐山・岩下)
2月13日(水)	成果と課題・来年度に向けて

3 研究の成果と課題

- ・研究テーマを意識しながら、児童生徒の実態に応じた授業実践を一人一人行うことができています。また、こうした実践を持ち寄り、情報交換を行うことで効果的な授業過程や指導法について学ぶこともできています。
- ・指導助言者の先生に毎回資料を提供していただき、実践だけでなく知識も増やすことができています。その中で、普段何気なく行っている日常の指導についても考え、見つめ直すことができた。
- ・2名の講師をお招きし、「国際連帯」に関わる講演をしていただいた。海外での活動経験を教えていただき、実際の学習の場面で子どもたちにどう関わらせていくか等、考える良い機会となった。
- ・最近の国際情勢からくる平和や人権問題について、日本としての立場や役割を考えていくことなど、平和・人権・国際連帯に関する私たちの知識・理解をさらに深めていく必要がある。

4 研究の仲間

◇指導助言者 高添 勉(玉宮小)

◇部会員 田邊博幸(大和小) 古屋勝之(山梨北中) 永関幸玄(山梨北中)
広瀬竜太(山梨北中) 中山貴彰(加納岩小) 岩下 城(山梨小)
日野原和貴(八幡小) 桐山祐希(後屋敷小) 岩下秀人(後屋敷小)

第6学年 学級活動指導案

指導者 中山 貴彰

- 1 題材名 「様々な人々が暮らす社会の人権について考えよう」
- 2 資料名 「ともに生きる社会」
- 3 題材設定の理由

(1) ねらいとする価値

社会には、国籍、宗教、年齢、性別など、「ちがい」のある様々な人が暮らしている。他の人と「同じ」であることを重視し、多数者を中心に考える社会では、少数者が不利益を被ったり、「ちがい」が差別や排除につながったりするおそれがある。誰もが一度は自分が少数者になったり、人とちがったりして不安を感じたことがあるだろう。子ども達には、相手の立場に立って考えたり、「ちがい」を理解したりして、多様性を認め合える人になってほしいと願っている。

ここでは、児童会行事である「おおとり祭り」に来られる様々な立場の人のことを考え、「自分達にできることはないかな」という視点で、周りの人たちの様子を見ることから始まる。そして、相手の立場に立ち、お客さん全員が安心してお店で楽しめるようにするにはどのようにしたらよいか解決方法を考えていく。個人やグループで解決方法を探っていく中で、お互いの意見のちがいを認め合う姿勢や、様々な立場の人を想定し親切にしようとする心情の育成を目指す。

(2) ねらいに関わる児童の実態

男子12人。女子13人の学級である。

本学級の児童は、男女共に明るく元気に生活している。そして、6年生として、行事を重ねるごとに最高学年としての成長が見られ、物事に積極的に取り組む児童や、人のためにといった態度を意識する児童も増えてきた。しかし発達段階があがるにつれ、自分自身を守ろうとする心の働きが生じ、自他をごまかしてしまう児童の姿も見られる。また、自分から積極的に物事に取り組む傾向は見られるが、自己中心的で自分の楽しみや利害を優先しがちである。仲のよい友達には誠実にふるまうが、関わりの薄い児童にはあいまいな態度をとる姿もしばしば見受けられる。

人権に関わる部分の学習についてはこれまで、道徳の学習を中心に扱ってきており、いじめや暴力、偏見や差別はよくないこと、許してはいけないことという意識は高まってきている。しかし、人権についての本質的な内容や問題については深く理解していない実態がある。本時の授業を通し、相手の立場を考え（想像）思いやりの心を持ち、互いの人権を尊重していく態度を育てていきたい。

4 学習計画

「安心して楽しめるおおとり祭りにするために」

○学級活動

「おおとり祭りに向けて」（本時）

○総合的な学習の時間

単元名 「地域との交流をしよう」

- ・地域の幼稚園や保育園，保護者やお年寄りを「おおとり祭り」に招待しよう。
- ・お客さんの立場に立った「おおとり祭り」を考えよう。

主な学習活動

- ・昨年度の様子からおおとり祭りに向けて出店を考える。
- ・お客さんの立場に立って出店での工夫や改善点を考える。
(先生方にも見てもらいさらに改善策を考える。)
- ALT の先生や出産予定のある先生からもアドバイスをもらう。
- ・出店の計画をし，準備する。
- ・「おおとり祭り」のふり返しをする。




○児童会行事

縦割り班による活動（12班編成）

- ・出店の準備と当日の役割分担を行う。
- ・班ごとふり返しをする。

5 本時について

- (1) 日時 平成30年 8月29日(水) 午後2:00～午後2:45
- (2) 場所 6年2組教室
- (3) ねらい 社会には，多様な人がともに暮らしているということに気づく。誰に対しても思いやりの心を持ち，相手の立場に立って親切にしようとする気持ちを養う。
- (4) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>①身近にあるマークや標識，児童会行事での行動から必要性や意味を考える。</p> <p>「マタニティマーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰のためにあるものか ・バスの中でこのマークを身に付けた人を見かけたらどうするか <p>「道路案内標識」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこで見かけるものか ・なぜ英語でも表わされているのか <p>「児童会行事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ手をつないだのか。 ・どんな表情で <p>②本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="268 1778 850 1980" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 おおとり祭りで，会議室にボウリングのお店を開くことになった。お客さん全員が安心して楽しめるお店をつくろう。</p> </div>	<p>○マークや標識，児童会行事での行動の分かる写真を用意しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マタニティマーク ・道路案内標識 ・学校行事 <div data-bbox="874 1451 1098 1653" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1145 1473 1407 1644" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="865 1688 1107 1845" style="text-align: center;">  </div>

	<p>めあて 相手の立場に立って、自分達にできることを考えよう。</p>	
展 開	<p>③昨年度の様子からおおとり祭りには、どのようなお客さんが来るか考える。</p> <p>・お年寄り ・子ども（幼稚園児・乳幼児） ・外国人 ・妊婦 ・加納岩小児童</p> <p>④このお店から改善できることを探る。 生活班で考える。（6班編成）</p> <p>レーンは2レーン。1人1回決められた線からボールを転がす。ペットボトルには倒れにくいように水を満タンに入れてある。ボールはバスケットボールを使う。待つ人は立って並んで待っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回より、2回にした方がみんなが楽しめる。失敗したときにあと1回チャンスがあるから。 ・投げる位置を変える。例えば1，2年生と幼稚園児は近くから投げられるようにする。 ・水が満タンだと小さい子は倒すのが難しい。水を減らした方が良い。 ・お年寄りや妊婦さんが座って待てるように椅子を用意する。 <p>⑤④について班ごと発表する。</p>	<p>○昨年度の様子から子ども達に発言させていく。</p> <p>○ワークシートを用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班内で意見が相違した場合は、どちらかにまとめなくてもよいことを伝える。 ・改善点だけでなく、理由も考えさせる。また、理由の中に「誰が」という視点も持たせられるようにする。 ・投げる位置を示したい場合には図に書き入れて良いことを伝える。 <p>○自分達にできることが複数あってもよいことを伝える。</p> <p>○ホワイトボードを使い発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードには改善点を1つ書かせ発表していく。
終 末	<p>⑥本時の学習を振り返り、これからどのように生活していきたいかなど感想をまとめる。</p> <p>まとめ 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って考えたり、行動したりすることが大切である。</p>	<p>○児童から出された意見をもとに、改めてねらいをおさえる。</p>

《参考文献》

神奈川県教育委員会 人権学習ワークシート集 小・中学校編

安心して楽しめるおおとり祭りをするために

6年2組 名前 ()

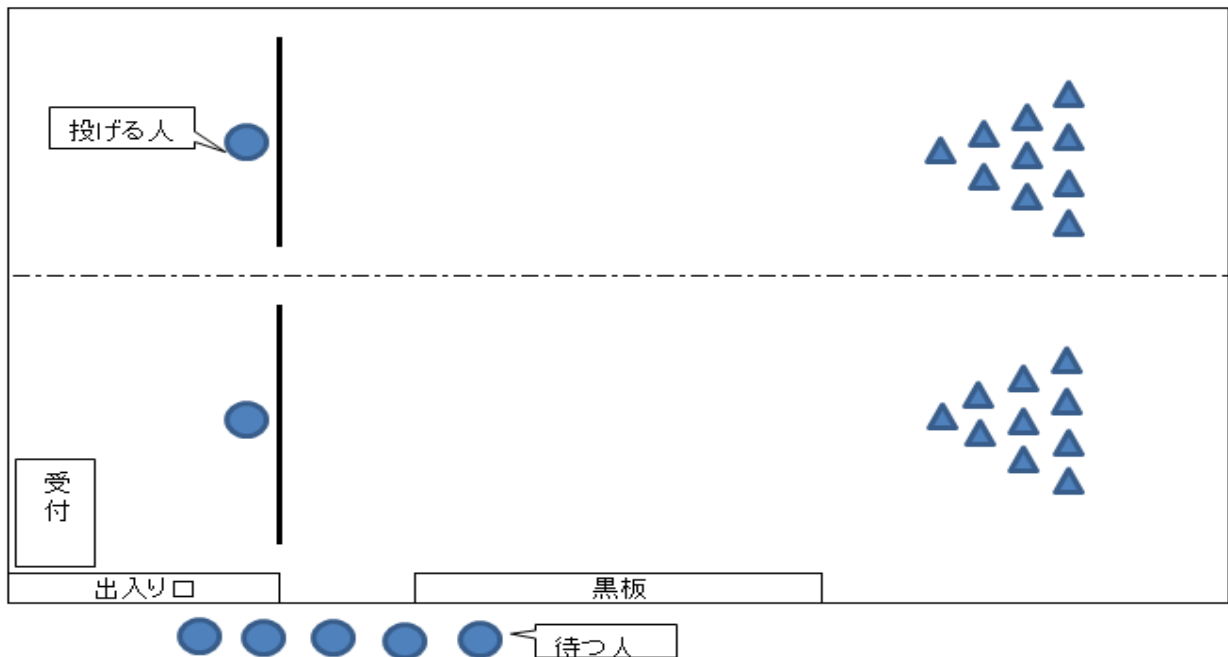
《やってみよう》

おおとり祭りで、会議室にボウリングのお店を開くことになった。お客さん全員が安心して楽しめるように、お客さんの立場に立って自分達にできることを考えよう。

☆どんなお客さんがおおとり祭り（お店）に来る？

《こんなお店があったとする・・・》

レーンは2レーン。1人1回決められた線からボールを転がす。ペットボトルには倒れにくいように水を満タンに入れてある。ボールはバスケットボールを使う。待つ人は立って並んで待っている。



☆ここを工夫すれば・・・（だれが）（みんなが）もっと楽しめるんじゃないか・・・

改善点（～を～にする）	理由

《学習感想》

今日の学習をふり返って、これからの生活に生かしていきたいことなどを書いてみよう。

7 成果と課題

(1) 児童の意見

○改善点から

- ・ペットボトルの水を減らす。理由は、大人と幼児の力が違うから。
- ・絵を使って説明する。理由は、外国人や小さい子に分かりやすくするため。
- ・待つ人は椅子に座ってもいいことにする。理由はお年寄りや妊婦さんに負担がかからないようにするため。
- ・人によってボールを転がす線の位置を変える。
理由は、幼稚園生やお年寄りなど、体を動かすのが難しい人は、高学年や大人と同じ位置からだと倒せないかもしれないから。
- ・好きなボールを選ぶ。理由は、その人に合ったボールはその人にしか分からないから。



○学習感想から

- ・今日の授業を通して、お年寄りや子どもなど自分とちがう生活をしている人にも目を向けることができた。おおとり祭りだけでなく普段の生活でも意識したい。
- ・いろいろな人の立場に立ってみることが大切だとわかった。また、その人がやりやすい工夫を考えていきたい。
- ・相手の立場に立って考えてみると、いろいろな工夫が必要だとあらためて知ることができた。また、相手が喜びそうなことを考えるのは自分もうれしくなるということが分かった。
- ・人の立場によってルールを変えたりして、どんな人にも安心して楽しめるように考えていきたい。

(2) 児童の意見からの考察と授業者の反省

今回の授業では、社会には多様な人が共に暮らしていることに気づくこと。それから、相手の立場に立って親切にしようとする気持ちを養うことをねらいとした。また、この授業を通して、児童会行事である「おおとり祭り」に限らず、日常生活にまで今日の学びをつなげられるようにと授業を仕組んだ。そのような視点から児童の学習感想を見ると、多くの児童が相手の立場に立って考えることの大切さについて触れることができおり、成果として挙げられる。また、普段の生活を意識している感想も見られたので、今日の学びからの広がりを大切にしていきたいと思う。そして、児童の改善策に見られた、「その人に合ったボールはその人にしか分からない。」という意見からは、人権教育において大事にしたいことを私自身も改めて考えることができた。相手の立場に立って考えたときに、考えた配慮の押しつけにならないよう、その人の選択肢の一つとし、その人の意思決定を大切に尊重していくことが人権の視点では大事なことだと考えを深めることができた。

全体をふり返ると、実際にバスケットボールやペットボトルを用意したことにより、子ども達の学習意欲や課題を捉えやすくする点で効果的であった。また、今までの「おおとり祭り」では、学校内の友達の話は考えられていたが、お客さん（他の立場の方）への配慮はできていない実態があった。その点については、今回の授業を生かし、みんなが安心して楽しめる「おおとり祭り」を目指していきたい。

(3) 研究協議から

- ・ワークショップ型では否定しないことが大切。普段から相手の意見を受けとめる指導がされている。
- ・「その人に合ったボールは、その人にしか分からない。」という意見からはその人に合ったものをという相手意識が見られたのは素晴らしいかった。押し付けるのではなくサポートしていくという視点を持っていた。また、それを子どもの発言の中から引き出したのはよかった。
- ・バスケットボールとペットボトルの実物を用意したことがよかった。
- ・今日の実践を足がかりにして他の実践に広げていけるのではないかな。
- ・今日出された望ましい意見を全員がしっかり共有して、校内の行事から日常に広がっていくといいのではないかな。
- ・学級活動では折り合いをつけること。人権的な視点では「今日みんなが考えた事が多くの人の安心・安全つながっていくね」「他者のために思いやりを持って考えることがまずスタート」となるので大事にしていきたい。

- ・「自分で選ぶ」という意思決定を大切に尊重していくのが人権の視点ではいいのではないかな。
- ・導入で絵を使ってガイドすることに触れていたのが、改善点を考える場面で子ども達の意見のよりどころとなった。

8 児童のその後の様子

《運動会の取り組みから》

○今年度から運動会に児童会種目が取り入れられた。執行部から6年生に向けてルールを提案したところ、次のような意見が子ども達から出された。

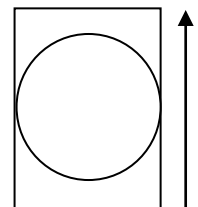
- ・布を持つのは片手としていたが、バランスボールは1年生にとっては重いかもしれないので両手もありにしたほうがいい。
- ・布を持つ場所は、持ちやすさや走りやすさを考えて自分達で決めた方がいい。
〔6年で4人組（低・中・高が入るように）〕は決めたが場所は色の作戦とした。

【児童会種目の練習の様子】

- ・1年生がどこの場所か分からない時に手を取って連れて行ってあげていた。
- ・低学年の高さに合わせたり、走るスピードも考えたりしていた。また、終わった後、下級生にスピードはどうだったか聞く姿が見られた。

○6年生としてどのような運動会にしたいかの作文から

- ・今までは自分だけが楽しければいいという考えだったが、6年生として下級生の見本となり、全員が楽しめる運動会にする必要がある。そのためには、見本になればいいという考えだけでなく、実際に下級生に声かけをしていかなないと伝わらない。
- ・自分達がどのような運動会にしたいかはそれぞれ違うし、一人一人の受け止め方や考え方も違うと思う。でも、みんなが同じ方向を向いていけばうまくいくと思うので全員で頑張りたい。
- ・自分達が最高学年という意識を持って運動会に取り組むこと。そして相手の立場を考えて行動することが大事だと思った。例えば、1年生が困っていたら手をつないで連れて行ってあげたり、実際に見せたりすることがいいと思う。
- ・組立体操では相手のことを考えて我慢したり、相手に合わせたりすることが大切だと思うので頑張りたい。



9 まとめ

これまでの人権教育では、だれに対しても差別する心や偏見を持つことなく、公正・公平の大切さを自覚すること、また、よりよい社会の実現（人権を守る・大切にすること）に努めようとする心情や態度をねらいとする学習は道徳の学習を中心に行ってきた。今回、人権教育のさらなる広がりを目指し、自分達の生活に身近な児童会行事から人権教育を考えていくこととした。毎年行われる行事として、1年生から6年生のことは縦割り班ごと工夫を考えていたが、実際その行事に来られるお客さんのことまでの工夫や配慮までは考えが広がっていなかった。このような実態から今日の授業を仕組んだわけだが、ねらいとする多様な人がともに暮らしているということ、また、相手の立場に立って（相手の立場を想像する）親切にしようとする態度や心情に気づくことができたとともに、相手の気持ちや思いに寄り添う共感能力を高めることができたと感じる。

児童のその後の様子として、運動会の取り組みを見ても、今までは自分だけが楽しければいいという考えの児童が多い実態があったが、相手のことを考えた行動や、相手の考えを認めなが

ら全員で頑張るといような姿が少しずつではあるが見られるようになってきた。また、「相手の立場を考える」といった言葉を使い、「相手のために」「人のために」という考えを持ちながら作文を書くなど、授業を通して学んだことが活かされていてよかったと思う。

今回、人権教育の広がりを目指す中で実践を行ったが、児童が考えた解決策を実際に試みるなど、その授業の時間だけといった実践にならないようにしていきたい。そして、そこから日常生活に生かせるような人権教育（人権感覚・人権意識の高まり）を今後も行っていきたいと考える。

